



地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今号では、関西地域ブロックおよび中国・四国地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

関西地域ブロックから

関西地域ブロック担当理事
所めぐみ(関西大学)

関西地域ブロックは、年次大会・総会(例年2月か3月)の開催、若手研究者・院生情報交換会の開催(年に3回程度)、紀要『関西社会福祉研究』(年1回)の発行を主な研究活動として活動しています。年に数回開催する理事会と理事会MLにより適宜検討や情報交換をし、会員のみなさまのご協力によりこうした活動等について計画的に進めています。

新型コロナウイルス感染拡大の当初は、こうした活動のうち対面で行うものについては中止や変更を余儀なくされました。しかし、現在では、ZOOM等のオンラインによる対面・会議形式を主な実施方法として、学会活動を継続しています。物理的移動の面等で制約の少ないオンラインによる参加のしやすさからか、以前より参加者数の増加や遠方からの参加がみられます。

若手研究者・院生情報交換会は第1回を2004年5月16日に「院生の研究テーマの交流」をテーマとして開催してから、昨年度までに47回と回を重ねてきました。各回の企画は、理事会メンバーを含む会員が担っています。このうち年に1回は、若手研究者・院生会員が企画を担当しています。以前は関西ブロック内の大学院に持ち回りのこの1回の企画を担っていただいていたのですが、最近では、留学生枠として、(元)留学生の若手研究者の方々による企画を年に1回実施することが定着しています。若手からベテランまで多様な会員の方々のご協力により活動が進められています。

この若手研究者・院生情報交換会、今年度は第48回を11月20日(土)15時から18時に「研究の進め方とその方法」をテーマに、講演とシンポジウム形式、オンラインで開催いたします。詳細は学会HPをご覧ください。続く第49回は2022年1月の開催予定で、同志社大学の遅力裕会員が企画代表者で準備を進めて下さっています。詳細が確定次第、学会HP等で広報させていただきます。

年次大会は関西地域ブロックと、1950年に設立された関西社会福祉学会の年次大会の位置づけとして、毎年、関西の各大学が大会開催校として持ち回りで開催してきました。昨年度は、日本社会福祉学会と本ブロックとの共催で第17回フォーラムを「地域における子育て支援～新型コロナウイルスとの共存の時代を迎えて～」をテーマにオンラインで開催しました。関西で活躍されている実践者、

研究者の方々にご登壇いただき、テーマを深め、全国から多くのご参加を頂きました。当日午前中には、開催校方式ではなく理事会が運営する形で、本ブロック・関西社会福祉学会の大会（自由研究発表）とその後総会をオンラインで開催いたしました。

現在、本ブロックの理事会では、2022年3月13日（日）のオンライン開催に向けて、今年度の大会の準備を進めています。コロナ感染拡大状況の変化により見通しが立てにくい中、開催校方式ではなく理事会が企画・運営を担うことといたしました。そして本大会は、若手研究者・院生情報交換会の通算50回開催を記念する大会として実施いたします。詳細が確定次第、ML配信の登録をさせていただきます関西地域ブロック会員のみなさまへはML配信、学会HPにてお知らせいたします。例年同様、関西地域ブロック・関西社会福祉学会会員による自由研究発表もあり、12月中に発表募集のお知らせをする予定です。

若手研究者、院生への研修支援は、地域ブロックに限らず、全国レベルでも日本社会福祉学会が現在注力していることです。こうした活動が有機的に連動し、若手研究者・院生の会員のみなさまの研究活動を促進するとともに、現在、また今後の学会活動の発展につなげていきたいと思っております。

物理的対面とのハイブリッドを含むオンラインを活用した集会形式は、今後新型コロナウイルスの感染拡大が終息したとしても活用していくことが考えられます。その一方で、あらためて地域ブロック・関西社会福祉学会としての活動の意義・意味を確認また検討し、よりよいものにしていく必要を感じています。これまでの関西地域ブロック・関西社会福祉学会の歩みをふりかえり、今後に向けてのよりよい活動に会員のみなさまとともにつなげていけるよう、今後も引き続き会員のみなさまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

中国・四国地域ブロックから

中国・四国地域ブロック担当理事
山本 浩史（新見公立大学）

中国・四国地域ブロックでは、学術機関誌の発刊とブロック大会が主要な事業となります。そのブロック大会ですが、7月10日（土）に第52回大会を初となるオンラインにより開催いたしました。この第52回大会は、本来は昨年度に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、延期を余儀なくされました。第52回大会のテーマは「社会福祉から、人の「はたらく」を問い直す」でした。研究発表（3分科会及び特別分科会）では11題の発表が行われ、基調講演では、神戸学院大学准教授、川本健太郎氏による「労働参加型社会起業の実践例の考察から人の「はたらく」を問う」と題したご講演を拝聴いたしました。川本氏のご講演では、特に地域福祉における社会起業概念を地域住民、当事者参加による互酬性に基づく組織化とソーシャルアクションだと再整理され、事例をもとにわかりやすくお話されました。この基調講演の内容は、機関誌に掲載する予定ですので、学会ホームページ地域ブロックのサイトでご覧いただければと思います。またシンポジウムでは、大会テーマについて御三方にご登壇いただきました。

まずNPO法人岡山マインド「こころ」代表の多田伸志氏からは、精神障がい者雇用による誰にとっても住みやすい地域づくりの実践についてお話いただき、NPO法人ホームレス支援きずな理事の新名雅樹氏は、ホームレス支援のご経験から「自立」に対する捉え方の盲点や「見守り」→「監視」、「支え合い」→「支配」になっていないか等、警鐘を鳴らされました。そして、岡山大学病院医療ソーシャルワーカーの石橋京子氏からは、がん患者相談のご経験から、患者になったとしても、その人の「はたらく」を支えることは、「その人がその人らしく生きること」を支えることにつながるといった、労働とは違う側面からの「はたらく」を支援することの重要性について、お話していただきました。このシンポジウムにより、改めて「はたらく」には、様々な意味があることに気づかされました。

来年度のブロック大会が、どのような形式で行えるのかは、現時点で不透明ですが、ブロック大会を継続して開催する意義としては、まずその地域の福祉課題を大会テーマに設定できることが挙げられます。そして、自分の研究成果を大会で発表することにより、自信と発表スキルを高め、全国大会での研究発表につなげることができれば、地方でブロック大会を開催することの意義が増すのではないかと考えています。